

## 『 心の中にいつまでも 』



わんこと私の関わりは、私が予備校時代に父が最真にしていた寿司屋からヨークシャテリアを貰い受けたことに始まります。

ダンディ（通称：ダン）と名付けられた彼は、名前に負けないハンサム犬でした。猟犬だった先祖の血が騒ぐのか、彼は、敷地に侵入する猫や鳩を追い回すことを日課にしていました。彼は、庭を走り回りお腹を空かします。彼の食欲はとても旺盛でした。だからでしょうか、彼の脚はどんどん伸びて背も高くなり、体重は8Kgを超えました。散歩に連れて行くと、すれ違う見知らぬ方から「まあ可愛い。犬種は何ですか。」と度々尋ねられました。私が「ヨークシャです。」とお答えすると、決まって「えっ、嘘でしょ。」と驚かれたものでした。そんな彼の大好物はお決まりで、どういう訳か、ロツテリアのチキン。それを丁寧に手で解して食べさせるのです。夕刻にこれを買う為の往復が彼のお気に入りの散歩コ

ースでした。ところが彼のファーストは私の母。いつも遊んでいる私の順位は何故か下から2番目でした。そんな彼も、私が実家を離れた翌年、母に看取られ約15年の生涯を閉じました。老衰でした。以来わんこを飼うことを私は止めようと思いました。

十数年を経て、私の子供達が大きくなったある日、皆が揃って「大型犬を飼いたい。」と言い始めました。当初私は、「大型犬の世話は大変でしょうし、いずれ来る別れは寂しく、ペットロス症候群になるのも嫌だ。」と犬を飼うことに反対しました。そもそも大型犬が走り回れる広い庭もありません。しかし、「家族皆で絶対に世話をするから、お願い。」の大合唱で遂に私は押し切られることになりました。

我が家にやって来たのは、バーニーズマウンテンのロッキーでした。生後2か月足らずにもかかわらず手首が太いことに驚かされました。コロコロの肉球が愛らしいのです。あつと言う間の数か月後、気付くと私が散歩係になっていました。

彼は、しつけを受けており賢く、優しい性格でしたが、時にとっても飽き性でマイペースでした。ある日のことでした。誰もいない深夜の公園だからと油断した私は、リードを外して彼とボール投げをして遊びました。彼は、1、2、3回と投げ

られたボールを全力で追い掛け、それを啜えて誇らしげに戻って来ました。4回目にボールを投げた時に事件が起きました。彼は、転がって行くボールを全力で追い越し、その先でジョギングしていた男性を追い掛けたのです。その男性は必死に逃げて金網のフェンスをよじ登ったのです。私は、ひたすらお詫びするしかありません。暗闇の中で真っ黒な大型犬に追い掛け回される恐怖を思うと、本当に申し訳ないことでした。

また、ロッキーと私が道の駅に寝泊まりする気ままな二人だけの旅に出掛けた時のことでした。

真っ直ぐな新潟の浜辺を散歩していると、前方から幼子が父親に手を引かれて近づいて来ました。幼子は、彼を指差しながら父親に「あれって、熊だよ。」と何度も尋ねていたのです。その父親は、その都度「あれは犬だよ。」と言いつけるのですが、幼子は信じようとしません。その様子を見ていた私は、少しだけ意地悪を思い付きました。そして、すれ違い様に「これは熊だよ。」と言ったのです。すると幼子は「やっぱり熊だ。」と叫び、父親にしがみ付きました。してやっつりの瞬間でした。

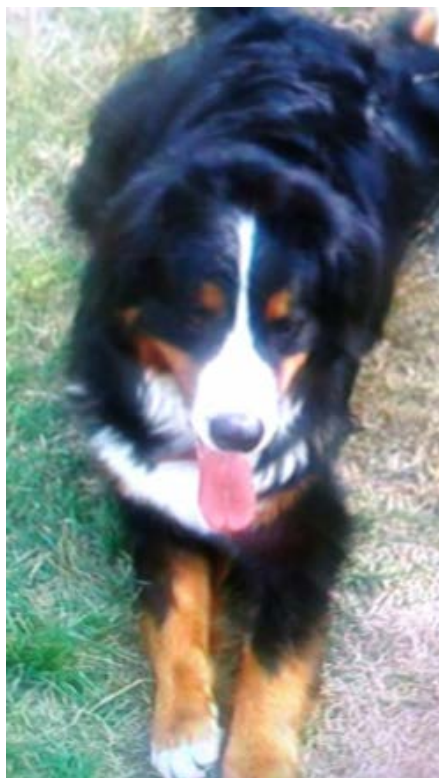
5年程前、突然目が見えなくなった彼は、リンパ系癌の宣告をされました。抗癌

剤を服用しても日に日に弱っていく彼に何もしてあげられませんでした。抗癌剤  
さえ効果無く、祈ることさえ虚しく思えたのです。でも彼は、痩せた躰で病気と  
一人闘っていました。そして、何と今年の4月まで必死に頑張ってくれたのです。  
最期は静かにテラスに横たわり、暖かい陽の下で眠る様に亡くなりました。きっ  
と彼は、天国に召されても無邪気にマイペースで暮らしているに違いないのです。  
おやすみ、ロッキー。

株式会社メニコン

取締役代表執行役社長 田中英成

田中英成



【ロッキー】



【ダン】